

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile Manufacturers Association

JAMA vol.51
2017 10月号
[October]

世界を、ここから動かそう。

クルマの進化は、これからどこへ向かうのだろうか。その答えは、きっとひとつではない。もしかしたらそう遠くない未来、クルマという概念は今とはまるで違うものになるのかもしれない。けれど、思い出そう。クルマの本質とは何かを。それは人を動かすものだ。ココロを動かすものだ。私たちの可能性をひろげ、自由にするものだ。クルマが変われば、人やモノだけでなくもっと多くのものを動かせる。社会を前進させ、境界を超えて世界をもっと自由にできる。だからこそ東京モーターショーは、クルマという枠を超えて生まれ変わろうと思う。世界最先端のナレッジがぶつかりあい、新たなイノベーションやビジネスを生み出すイベントへと進化する。時代とともに成長しながらモビリティ産業の次のミッションを指し示す。さあ、回転数を上げよう。あらゆる境界を超えて、クルマの未来を拡張していく冒険のはじまりだ。

自工会会員企業
14社の出展概要



熱き志を掲げた14社が出展車両を披露
TMSの主役たち

世界を、ここから動かそう。
BEYOND THE MOTOR
「第45回東京モーターショー2017」が
世界10カ国から153企業・団体の参加で開幕

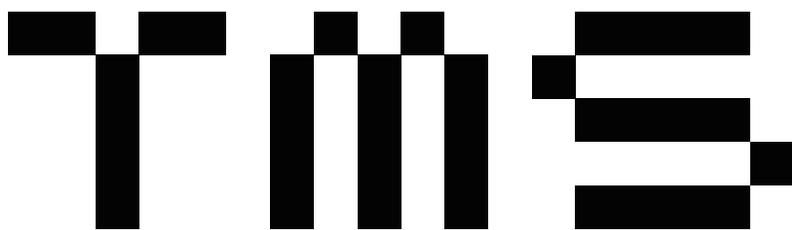
BEYOND THE MOTOR TMS

TOKYO MOTOR SHOW 2017

世界を、ここから動かそう。

クルマの進化は、これからどこへ向かうのだろう。その答えは、きっとひとつではない。もしかしたらそう遠くない未来、クルマという概念は今とはまるで違うものになるのかもしれない。けれど、思い出そう。クルマの本質とは何かを。それは人を動かすものだ。ココロを動かすものだ。私たちの可能性をひろげ、自由にするものだ。クルマが変われば、人やモノだけでなくもっと多くのものを動かせる。社会を前進させ、境界を超えて世界をもっと自由にできる。だからこそ東京モーターショーは、クルマという枠を超えて生まれ変わろうと思う。世界最先端のナレッジがぶつかりあい、新たなイノベーションやビジネスを生み出すイベントへと進化する。時代とともに成長しながらモビリティ産業の次のミッションを指し示す。さあ、回転数を上げよう。あらゆる境界を超えて、クルマの未来を拡張していく冒険のはじまりだ。

BEYOND THE MOTOR



TOKYO MOTOR SHOW 2017



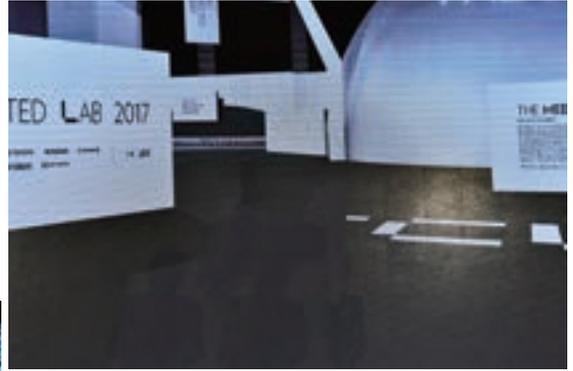
第45回東京モーターショー2017

会期：2017/10/27(金)-11/5(日) 会場：東京ビッグサイト www.tokyo-motorshow.com JAMA 

JAMAGAZINE 2017年 10月号

発行日 平成29年10月25日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室・電話番号 03(5405)6119

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



大学の学食トレイで東京モーターショーをPR

02

巻頭特集

東京モーターショー 世界を、ここから動かそう。 BEYOND THE MOTOR

「第45回東京モーターショー2017」が
世界10カ国から153企業・団体の参加で開幕

07

自工会会員企業14社の出展概要

TMSの主要たち

熱き志を掲げた14社が出展車両を披露

いすゞ (p8~)	川崎重工業 (p10~)
スズキ (p12~)	スバル (p14~)
ダイハツ (p16~)	トヨタ・レクサス (p18~)
日産 (p20~)	日野 (p22~)
ホンダ (p24~)	マツダ (p26~)
三菱自動車工業 (p28~)	三菱ふそう (p30~)
UD TRUCKS (p32~)	ヤマハ (p34~)

36

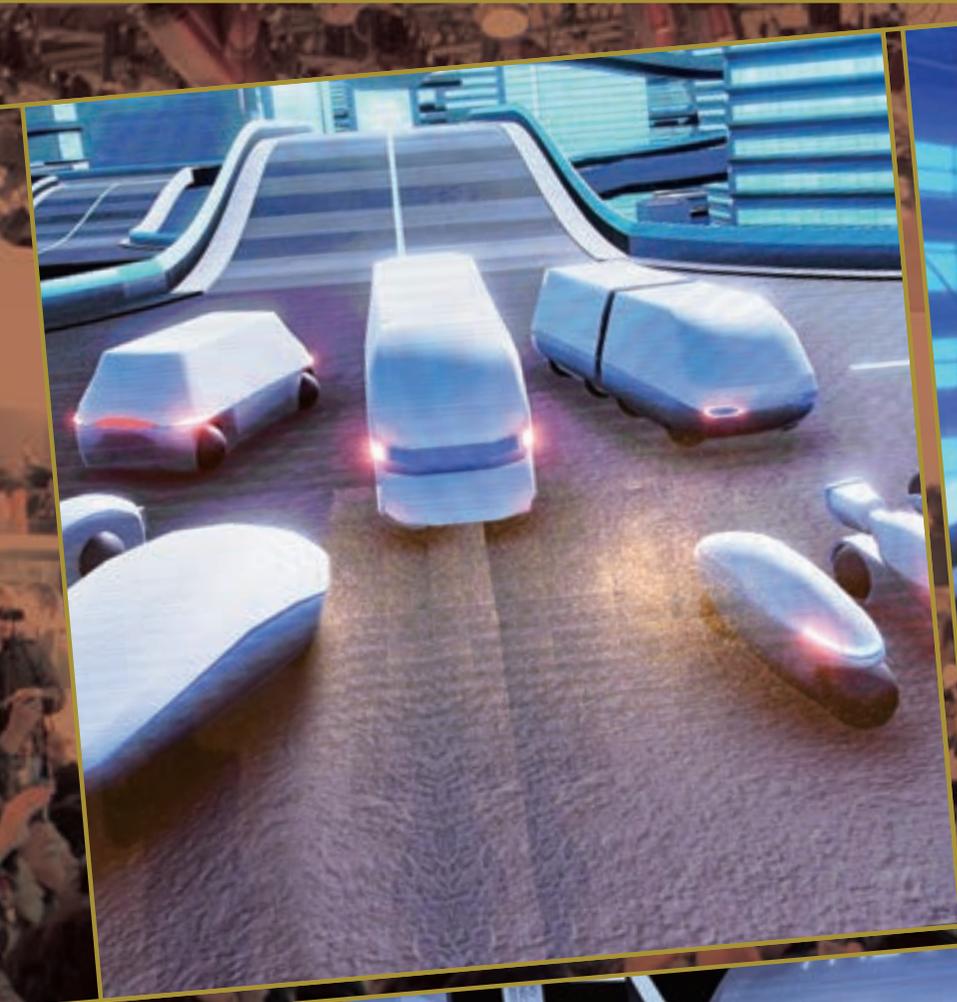
試乗体験プログラムのご案内

37

Topics

大学の学食トレイで 東京モーターショーをPR

TOKYO MOTOR SHOW



VR 展示

THE MAZE

-迷路迷宮を突破せよ-

「THE MAZE」は約30人が同じバーチャル空間で試乗体験できるネットワーク型VRシステムを採用し、自動運転、車・路車間通信、モビリティサービス等、様々なコネクティッド・テクノロジーを通してクルマの快適さや安全性等をゲーム感覚で体感して頂くことができます。

Photo ©2016 Sony Interactive Entertainment Inc.
All rights reserved.



トークイベント

THE MEET UP

-モビリティの未来を語ろう-

「THE MEET UP」はクルマ業界に加え、様々な業界・分野のビジネスリーダーやトレンドリーダーと来場者が将来のモビリティ社会の広がりや可能性について語り合い、未来テクノロジーの情報発信を行います。

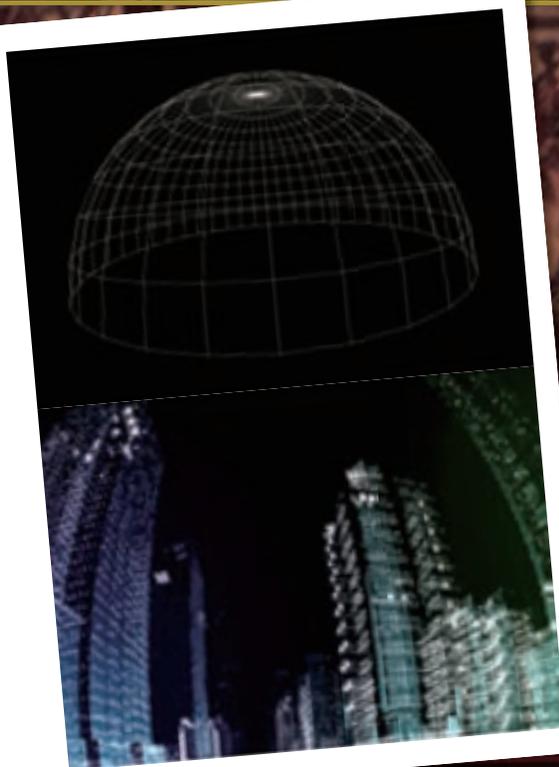


インタラクティブ展示

THE FUTURE

-東京とモビリティの未来を描こう-

「THE FUTURE」は、約300人が一度に体験できる大きなドーム型映像空間(360度映像)で、自動運転・パーソナルモビリティ・スマートロジスティクス・カーシェアリング等、2020年のメガシティ東京とさらにその先のモビリティ社会を俯瞰体験できます。



パーソナルモビリティ試乗体験



各種試乗・同乗試乗体験



最新乗用車・二輪車試乗体験

また、参加・体験型の試乗会は、近隣の臨海副都心エリアの3会場にて大幅に拡充し、様々なモビリティや乗用車・商用車・二輪車等、これまで以上に多くの試乗プログラムもご用意しています。

このように、より身近に近未来のモビリティ社会を提案することで、幅広い方々にご来場いただき、自動車の進化を身近に感じていただきたいと考えています。自動車産業の枠を超えて、さまざまなアイデアやテクノロジーを取り入れることで、クルマが好きな方だけでなく、ITや最近の自動車の進化に関心のある方にも十分にご満足頂ける内容となっています。ぜひ今回の東京モーターショーにご期待下さい。



世界を、ここから動かそう。

BEYOND THE MOTOR

「第45回東京モーターショー2017」が

世界10カ国から153企業・団体の参加で開幕

（主催）一般社団法人日本自動車工業会

第45回東京モーターショー

2017は、東京モーターショーを世

界中が注目し、グローバルな情報発信力・集客力を
持つ「存在感のある国際モーターショー」にすべく
取り組み、乗用車、商用車、二輪車、カロッツェリア、
車体、部品、機械器具、自動車関連サービスを含む総
合ショーとして開催します。今回のショーテーマは
「世界を、ここから動かそう。BEYOND THE
MOTOR」。このテーマは、クルマの価値や楽しさ
を拡張しながら、業界の垣根を超えて世界最先端の
ナレッジが集まり、新たなイノベーションやビジネス
を生み出せるようなイベントを目指すという思いを
込めています。

世界一のテクノロジーショーを目指す

世界10ヶ国から合計153社・団体が参加し、国内全ての乗用車・商用車・二輪車メーカー14社15ブランド、海外メーカー13社19ブランド（乗用車・商用車・二輪車）が出展、また、会場である東京ビッグサイトは、東7/8ホールが増設されたことにより、前回第44回ショーを超える展示面積規模での開催となります。

今回、新たな東京モーターショーのシンボルイベントとして、「世界一のテクノロジーモーターショー」を目指し、日本の最新技術をアピールする出展者展示と共に、新たなモビリティ社会を想起させる主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」を実施することとしています。

ここでは、将来のモビリティ社会がもたらす新しい価値や社会とのつながりを解りやすく、お客様視点で体験いただく参加型の3つのプログラムをご用意しています。

公式アプリをダウンロードして、
東京モーターショー体験をBEYONDしよう。



会場に行く前にぜひダウンロードしてください!



前 回ショーに引き続き、第45回東京モーターショー2017の公式アプリ(iPhoneとAndroidともに対応)を導入します。東京モーターショーの様々な情報を一括で確認でき、今回は特に出展者のステージスケジュールを拡充させました。

また、主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」への参加機能と、試乗プログラムの事前予約機能を新たに搭載。前回に引き続き、行きたいブースに案内するナビゲーション、混雑具合が可視化されるヒートマップ、そして出展ブースやイベントをお気に入り登録できるカスタマイズ機能などが利用できます。これ一つで会場が回れる、総合情報ツールです。

最新情報は
オフィシャルWebサイトやSNSでも!

<http://www.tokyo-motorshow.com/>



[東京モーターショー]

[@tms_jpn]

[tms_jpn]

ハッシュタグ [#tms2017]

熱き志を掲げた 14社が出展車両を披露

「世界一のテクノロジーショー」を目指す。10月27日、この熱き志を掲げて「東京モーターショー2017」(TMS)が開幕。これまでの枠を超え、モビリティの未来を多角的に、多様的にプレゼンテーションする。ここで中核をなすのが、いうまでもなく日本自動車工業会会員である「いすゞ」、「カワサキ」、「スズキ」、「スバル」、「ダイハツ」、「トヨタ・レクサス」、「日産」、「日野」、「ホンダ」、「マツダ」、「三菱自工」、「三菱ふそう」、「UD」、「ヤマハ」の14社である。バイクから乗用車、商用車、大型トラックと主要な乗り物を網羅しており、各社が展示するコンセプトカーや最新モデルは、モビリティの未来を描く。グローバルの中で、改めて日本の自動車メーカーによる開発力、技術力が存在感を示すことは間違いない。

今回のTMSは、「世界一のテクノロジーショー」を目指すという目標に相応しく、自工会会員14社をはじめ、世界10カ国、150社を超える出展企業が、合計70台以上のワールドプレミア発表を予定している。これはTMSが規模の時代から、内容の時代に変貌を遂げたことを意味する。特に今回はAI、IoT、ビッグデータを活用した自動運転や環境、安全対応が大きな進展を見せるだろう。まさにTMSから世界に最新の自動車情報が発信される。それだけに会員企業14社の展示ブースは国内外から注目を集める。

TMSの 主役たち

デザインコンセプト FD-SI



未来の配送をコンセプトに、宅配ネットワークを新たな視点で見直し、ワクワクするような未来の「運ぶ」を表現しました。

昆虫などの生物に見られる群知能に着目し、集配方法に応用。エクステリアは蜂の巣をモチーフにしたバイオデザインを取り入れ、カーゴは強度とスペース効率のバランスに優れたハニカム構造、積荷も六角形の専用ボックスを重ねた荷姿に。キャabinはインパネ中央に操作機能を集約し格納式ステアリングを搭載。シートはセンターに配置し、よりスムーズなドライバー導線および快適な操作性と居住性を兼ね備えます。



ギガ いすゞ80周年記念モデル

ドライバーの相棒に。経営者の右腕に。大型トラック「ギガ」は、常に進化を続けています。

運行中の車両データを常時モニタリングし、安心稼働をサポート。さらに先進の安全装置と、地図情報を活用した新機能「Smartグライド+g」が、より高レベルな安全運行と省燃費走行に寄与します。

SPEC

全長:11985mm×全幅:2495mm×全高:3795mm 駆動方式:8×4(後軸4輪駆動)【サスペンション】フロント:リーフサスペンション リヤ:4/バッグエアサスペンション 変速機: MJX12(スムーサーGx) エンジン型式: 6UZ1-TCS 総排気量:9839cm³(cc) 燃料供給装置: 電子制御式コモンレールシステム 最高出力: 279kW(380PS)/1800rpm(ネット値) 最大トルク:1814N・m(185kg・m)/1000-1200rpm(ネット値) 重量車モード燃費値:4.25km/ℓ 車両総重量:24965kg 最大積載量:13800kg

エルガ 排出ガス後処理装置を改善するとともにさらなる燃費向上を図った大型路線バス「エルガ」。

LEDヘッドランプを採用し、夜間の視認性向上・長寿命化によるメンテナンスコスト削減を図りました。バリアフリー・ユニバーサルデザインにより、優先席まわりの安全性確保や優れた乗降性に配慮しています。また新たに、運転席の足回りスペース拡大による乗務員の運転環境を改善しました。

SPEC

全長:11130mm×全幅:2485mm×全高:3045mm 駆動方式:4×2(後軸2輪駆動)【サスペンション】フロント:車軸式エアサスペンション リヤ:車軸式エアサスペンション 変速機: MZW6(AMT) エンジン型式:4HK1-TCH 総排気量:5193cm³(cc) 燃料供給装置: 電子制御式コモンレールシステム 最高出力: 177kW(240PS)/2400rpm(ネット値) 最大トルク: 735N・m(75kg・m)/1400-1900rpm(ネット値) 重量車モード燃費値:4.90km/ℓ 車両総重量:14715kg 乗車定員:87名(座席29+立席57+乗務員1)



mu-X〈海外生産・販売車両〉

アジア・オセアニア・中近東・中米等で展開し、各国のニーズに応えるPPV(パッセンジャーピックアップビークル)。

悪路走破性や耐久性に優れ、室内の広さも同クラスでは最大級です。オンとオフの用途を想定し、3tの牽引許容重量も備えます。

SPEC

全長:4825mm×全幅:1860mm×全高:1830mm 駆動方式:4×2(後軸2輪駆動)【サスペンション】フロント:ダブルウィッシュボーン式コイルスプリング リヤ:5リンク式コイルスプリング 変速機: MVL6(MT) エンジン型式: RZ4E-TC 総排気量:1898cm³(cc) 燃料供給装置: 電子制御式コモンレールシステム 最高出力: 110kW(150PS)/3600rpm(ネット値) 最大トルク:350N・m(35.69kg・m)/1800-2600rpm(ネット値) 車両総重量:2650kg 乗車定員:7名

ISUZU

いすゞ自動車お客様相談センター
フリーダイヤル ☎0120-119-113
受付時間 月曜日～金曜日(除く所定の休日)
9:00～12:00、13:00～17:00

いすゞ自動車株式会社は、第45回東京モーターショーに、8台の車両(内、参考出品4台)、4基のパワートレインなどを出品します。今回のモーターショーでは、「運ぶの時代に、できること。」をコンセプトワードとしました。「運ぶ」ことへの存在感が増しているこの時代。全力で「運ぶ」を支え、社会とともに未来へと進んでいくために、創立80周年を迎えた私たちいすゞができること。

今日も世界中の「運ぶ」を支えているいすゞの商品や、「運ぶ」を止めないための稼働サポートの展示に加え、現在、近い将来、未来それぞれの時代の「運ぶ」へのご提案として、「ISUZU 6×6」、「エルフ EV」、「デザインコンセプト FD-SI」の参考出品モデルをご紹介します。

エルフ EV

いすゞ自動車が提案するEVトラック。

ゼロエミッションや低騒音など、環境・人にやさしいことはもちろん、商用車にとって大切な架装物も電気で動かします。

また、大容量バッテリーの搭載や次世代の急速充電技術等に対応することで、「働く車」として十分な性能を兼ね備えました。

これからの時代の「運ぶ」を支える、新しい商用車です。



SPEC
全長:6690mm×全幅:2154mm×全高:3000mm 駆動方式:4×2(後軸2輪駆動【サスペンション】フロント:インデペンデントサスペンション リヤ:リーフサスペンション
バッテリー種類:リチウムイオン電池 一充電走行距離:100km以上 充電仕様:次世代急速充電、普通充電 最大積載量:3000kg

ISUZU 6×6

高い走破性で多様な目的に対応。過酷な環境にも屈することなく、あらゆる場面で「運ぶ」を支える「ISUZU 6×6」。

高走破性を確保するため、全軸シングルタイヤ、全軸駆動タイプの六輪駆動(6×6)を採用。また、最低地上高、アプローチアングル、デパーチャーアングルは、一般車よりも高く設計しています。不整地走破性、軟弱地通過性、地形障害通過能力が高く、その踏破性能と登坂性能で、広域林野火災や豪雨による浸水など、大きな災害に対応可能です。



Ninja 650

新しいNinja 650はバランスの良さと、エキサイティングなフィーリングを主眼にしたモデル。非常に軽くスリムなシャーシに、中低速回転域の力強さを重視した650ccパラレルツインエンジンを搭載。スーパースポーツのような軽快なハンドリングと、ダイレクトなフィーリングと力強い加速、そして扱いやすいパワー特性によって、ベテランからビギナーまで幅広い

ライダーが親しみやすく、気軽な日常のライディングでもエキサイトメントを感じられます。Ninjaファミリーらしいシャープなスタイリングは、日常を刺激的にするマシンキャラクターを象徴しています。



SPEC

●Liquid-cooled ●4-stroke Parallel Twin ●DOHC 8-valve ●Digital Fuel Injection ●649cm³

Z650

カワサキのスーパーネイキッドZ650は、軽量でスリムな新作フレームに、低中速のトルクを重視した649cm³のパラレルツインエンジンを搭載。軽快でダイレクトなハンドリング、力強い加速と扱いやすいパワー特性を持ち、ベテランからビギナーまで幅広いライダーが、あらゆるシチュエーションで走る喜びを体験することができます。また、Zシリーズ共通

の特長である、五感を刺激する乗り味やダイレクトなコントロール性といった『凄み』パフォーマンスと、先鋭的な車体形状やダイナミックなクラウチングフォルムによる『凄み』デザインを兼ね備えています。



SPEC

●Liquid-cooled ●4-stroke Parallel Twin ●DOHC 8-valve ●Digital Fuel Injection ●649cm³

Kawasaki

(株)カワサキモーターズジャパン
お客様相談室

フリーダイヤル ☎0120-400819
☎078-925-2003

営業時間 月曜日～金曜日(除く祝日、特別休業日)
9:00～12:00、13:00～17:00

「人々の暮らしを豊かにしたい」。この想いを実現するため、カワサキは創業以来、未来を見つめ既存の常識にとらわれることなく挑み続けてきました。その姿勢はこれからも変わりません。いま、あらゆるものがインターネットに繋がり、人工知能による自動運転技術も実現する一歩手前までできています。こうした未来の技術とカワサキが誇る走りへのこだわり「RIDEOLGY(ライデオロジー)」を融合させることで、「操る喜び」を追求していきます。さて、この東京モーターショーでは、ワールドプレミアムモデルに加え、18MYニューカラーの下記モデルを展示・ご紹介します。

Ninja H2 CARBON

川崎重工グループの技術を結集して作り上げた、ハイパフォーマンススーパースポーツモデル。ガスタービンや航空機用エンジンの技術を応用した、完全自社設計の「998cm³並列4気筒スーパーチャージドエンジン」が圧倒的な加速力を生み出します。太さ、厚み、形状の異なる高張力鋼パイプを組み合わせ、優れた剛性バランスを達成した「トレリスフレーム」は直進安定性と軽快な運動性を両立。エアロダイナミクスに基づいたボディワークには多くの作業工程を必要とする「銀鏡塗装」を採用し、美しい輝きと深みのある艶を実現しました。

Ninja H2 CARBONは、Ninja H2をベースに、クローズドコース専用車であるNinja H2Rと同様のカーボンファイバーアッパーカウルを採用したモデル。質感だけでなく、存在感も大幅に高めています。また、専用のペイントとグラフィックを施すことでそのプレミアム性も向上しています。

SPEC

●Liquid-cooled ●4-stroke In-Line Four, Supercharged ●DOHC 16-valve ●Fuel Injection ●998cm³





キャリイ軽トラいちコンセプト

- キャビンを広く、使い勝手を向上させた新しい軽トラックで軽トラ市に出店することを想定したコンセプトモデル。
- 「仕事専用車」ではなく、毎日の移動やレジャーに幅広く使える車を提案する。
- さらに「あったらいいな」というアイテムを盛り込んでいる。

SPEC

全長:3395mm×全幅:1475mm×全高:1885mm(車両本体)
ホイールベース:1905mm パワーユニット:658cm³ R06A型水冷直列3気筒 駆動方式:4WD 乗車定員:2名

伝統的な外観を取り入れた “ネオレトロカテゴリー”のSV650X



- 現代の最新技術を用いたエンジンや車体に、伝統的な外観を取り入れた“ネオレトロ”と呼ばれるカテゴリーのコンセプトモデルを提案する。
- 2016年モーターサイクルショーで注目を集めた「SV650ラリーコンセプト」の進化形である。

SPEC

全長:2140mm×全幅:730mm×全高:1090mm ホイールベース:1450mm
パワーユニット:645cm³ 4ストローク水冷4サイクル90度Vツインエンジン



上質なスタンダードスクーター SWISH(スウィッシュ)

- スクーターを乗り継いだ大人も納得する上質感を持ったスタンダードスクーターを提案する。
- 市街地での取り回しの良さや軽快な運動性を求めるユーザーや、通勤にスクーターを使用するユーザーを想定した。

SPEC

全長:1831mm×全幅:716mm×全高:1108mm ホイールベース:1248mm
パワーユニット:124cm³ 4ストローク空冷単気筒エンジン

軽量で高性能なスーパースポーツ GSX-R125



- GSX-R1000を踏襲したフルカウルのスタイリングにDOHC C4バルブのエンジンを搭載。
- GSX-Rシリーズの流れを汲むフルサイズのスーパースポーツモデル。

SPEC

全長:2000mm×全幅:700mm×全高:1070mm ホイールベース:1300mm
パワーユニット:124cm³ 4ストローク水冷DOHC単気筒エンジン





スズキ(株)お客様相談室
 お電話の場合 フリーダイヤル ☎0120-402-253
 オープン時間 9:00~12:00、13:00~17:00
<http://www.suzuki.co.jp/car/>

スズキ株式会社は創業以来、小さなクルマや二輪車、電動車いす、船外機で、お客様の役に立つ楽しくユニークな商品づくりに一貫して取り組んできた。今回の東京モーターショーでは、『“ワクワク”を、誰でも、どこへでも』を出展テーマに定め、2020年に創立100周年を迎えるスズキが、さらに次の100年に向けた製品開発や技術開発に対する取り組みを披露する。

スズキが次の100年に向けて提案する

未来のコンパクトSUV e-SURVIVOR (イー・サバイバー)

- ジムニーやエスクードが持つスズキのコンパクトSUVの魅力を継承した、スズキが次の時代に向けて提案する未来のコンパクトSUV。
- ラダーフレームと軽量・コンパクトボディによるスズキSUV伝統の走破性はそのままに、電動化のもたらす新たな4WDの可能性を提案する。

SPEC

全長:3460mm×全幅:1645mm×全高:1655mm ホールベース:2300mm
 パワーユニット:モーター(前後デュアルモーターアクスルユニット)
 駆動方式:4モーターによる四輪独立駆動



迫力と存在感のあるスタイルの頂点を目指した
軽ハイトワゴン

SPACIA CUSTOM CONCEPT (スペーシア カスタム コンセプト)

- ボリュウムのある大型フロントメッキグリルで、圧倒的な迫力と存在感のあるデザインを提案する。
- 軽ハイトワゴンの使い勝手の良さに、ラグジュアリーでゴージャスなデザインを組み合わせた。

SPEC

全長:3395mm×全幅:1475mm×全高:1785mm ホールベース:2460mm
 パワーユニット:658cm³ 直列3気筒 インタークーラーターボマイルドハイブリッド
 駆動方式:2WD

広い室内のワゴンとSUVを融合させた 新ジャンルの小型クロスオーバーワゴン XBEE (クロスビー)

- 「もっとみんなで、もっと遠くまで遊びに行きたい」「もっとかっこよく人生を楽しみたい」都会でお洒落に、レジャーでアクティブに、様々なライフスタイルに似合う小型クロスオーバーワゴンを提案する。

SPEC

全長:3760mm×全幅:1670mm×全高:1705mm ホールベース:2435mm
 パワーユニット:996cm³ ブースタージェットエンジン マイルドハイブリッドシステム
 駆動方式:2WD/4WD





レガシィ アウトバック Limited Smart Edition



レガシィ アウトバック Limited Smart Editionは、レガシィ アウトバックの最上級グレードが持つ上質感を活かしつつ、さらに機能的に仕上げた特別な一台です。専用グリル、専用ホイール、ウルトラスエード[®]シート、ダークエンボスシルバー調加飾パネルといった、アウトバックならではの気品を感じさせる内外装デザインに加え、8インチの大型ナビゲーションシステムを装着。Apple CarPlay[™]/Android Auto[™]に対応した車両との連携や、専用のHarman/kardonオーディオシステムなどの高機能を兼ね備え、ドライビングの安心と愉しさをより一層深めます。

※ウルトラスエード[®]は、東レの登録商標です。

SUBARU XV FUN ADVENTURE CONCEPT

SUBARU XV FUN ADVENTURE CONCEPTは、SUBARU XVの特徴の一つであるタフでラギッドなデザインを一層強調したデザインコンセプトモデルです。アウトドアアクティビティを思い切り楽しむことのできるSUBARU XVの世界観を、専用オフロードタイヤとそれに合わせて更に力強いデザインに変更したクラディングにより表現しました。ボディーカラーには大自然の中でも力強く輝くイエローメタリックを採用しました。



IMPREZA FUTURE SPORT CONCEPT



IMPREZA FUTURE SPORT CONCEPTは、IMPREZA SPORTをベースに、より気軽に運転を愉しみたくなる、新しいスポーツ価値を提案するデザインコンセプトカーです。低重心でダイナミックな形状の前後バンパー、スポーティーで存在感のあるセンターマフラーは運転する愉しさを想起させます。また、ボディーカラーのイエローパールとコントラストの効いたインテリアコーディネートによりアクティブなキャラクターを表現しています。



SUBARU

SUBARUお客様センター
☎0120-052215

受付時間 平日 9:00~17:00
土日祝 9:00~12:00、13:00~17:00

SUBARUは、「New SUBARU Story ~モノをつくる会社から、笑顔をつくる会社へ~」をコンセプトに出展します。SUBARUブランドがお客様に提供する価値である「安心と楽しさ」の将来像や世界観を、出展車やブース全体を通じて表現し、来場されるお客様に笑顔をもたらす体験を提供します。SUBARU独自の運転支援システム アイサイトを核とした高度運転支援技術の搭載により、安全に関する将来ビジョンを具現化しつつ、SUBARU共通のデザインフィロソフィー“DYNAMIC x SOLID”に基づいたスポーツセダンスタイルを採用する

ことで、走りの楽しさを表現した「SUBARU VIZIV (ヴィジヴ) PERFORMANCE CONCEPT」を中心に、「安心と楽しさ」を体現するコンセプトカーや初公開となる市販車、Super GT参戦車両などを出展します。

SUBARU VIZIV PERFORMANCE CONCEPT



SUBARU VIZIV PERFORMANCE CONCEPTは、SUBARUがお客様にお届けする安心で楽しいクルマづくりの将来ビジョンを具現化したスポーツセダンタイプのコンセプトモデルです。将来の自動運転技術普及期を見据え、アイサイトを核とした高度運転支援技術を、運転を積極的に楽しみたいくなるスポーツセダンボディに搭載することで、SUBARUらしい安心で楽しいドライビングの世界観を提示します。

S208

WRX STIをベースとするS208は、“Sシリーズ史上最高の性能と質感を実現した究極のドライビングカー”を実現すべく、SUBARUとそのモータースポーツ統括会社であるSTIが共同してエンジンや足回りを専用開発し、外装・内装にも専用装備を追加した、SUBARUハイパフォーマンスカーのトップエンドモデルです。2015年に発売したS207に対して、エンジン出力・加速性能の向上やカーボンルーフの採用による低重心化等の改良を施し、SUBARUらしい走りの楽しさを極限まで高めました。



SUBARU BRZ STI Sport



SUBARU BRZ STI Sportは、BRZのしなやかさと操縦安定性を高めた、究極の“Fun to Drive”、“Pure Handling Delight”を目指したクルマです。BRZ が持つポテンシャルを最大限に引き出し、抜群の操縦安定性と素晴らしい乗り心地をさらに1つ上のレベルで両立すべく、SUBARUとそのモータースポーツ統括会社であるSTIが共同開発し、SUBARU BRZのカタログ最上級グレードとして設定しました。



DN U-SPACE(ディーエヌ ユースペース)

“忙しいママを支える、モアスペース系軽自動車の使い勝手の良さをさらに高めた新提案”



モダンプロダクティブなシンプルさをもった内外装。
ハンズフリー機能を備えたBピラーインの大開口前後スライドドア、助手席チップアップシートによる室内ウォークスルー、前席パノラマビューなどによる使い勝手の良さ。

パワートレーンは660ccガソリンエンジン。

SPEC

全長:3395mm×全幅:1475mm×全高:1750mm
パワートレーン:660ccガソリンエンジン水冷直列3気筒
12バルブDOHC横置 搭載ミッション: CVT
駆動方式: FF 乗車定員:4名 シート列数:2列

DN TREC(ディーエヌ トレック)

“日常と趣味の両立を実現するコンパクトでスタイリッシュなSUV”



アクティブ、ファン、タフをテーマにした上質でコンパクトなスタイリングとインテリア。

日常と趣味の両立を実現するアクティブビークル。

パワートレーンは1,200ccハイブリッド(1,000ccターボも搭載可能)。



SPEC

全長:3980mm×全幅:1695mm×全高:1600mm
パワートレーン:1200ccHV(1000ccターボも搭載可能)
駆動方式: FF 乗車定員:5名 シート列数:2列



DN MULTISIX(ディーエヌ マルチシックス)

“コンパクトながらスタイリッシュなプレミアム6人乗りミニバン”

使い勝手とプレミアム感を両立したコンパクト3列ミニバン。

2列目シート間のウォークスルーにより、3列目シートのユーティリティを向上。

パワートレーンは1,500ccガソリンエンジン。



SPEC

全長:4310mm×全幅:1720mm×全高:1695mm
パワートレーン:1500ccガソリンエンジン
搭載ミッション: CVT
駆動方式: FF 乗車定員:6名 シート列数:3列

**DAIHATSU**ダイハツ工業株式会社 お客様コールセンター
☎0800-500-0182

ダイハツ工業(株)(以下、ダイハツ)は、ワールドプレミア4車種4台・ジャパンプレミア1車種1台・計5車種5台の参考出品車、1台の市販予定車、および10台の市販車を出展する。今回は、2017年3月の創立110周年を期に刷新したグループスローガン「Light you up ～らしく、ともに、軽やかに～」を出展テーマに掲げる。お客様一人ひとりを照らし、輝いたライフスタイルと軽やかな気持ちを提供する、との思いを込めており、ブースデザインやコンセプトカーで表現する。

DN PRO CARGO(ディーエヌ プロカーゴ)

“軽自動車の便利さを徹底的に追求した商用EVモデル”
女性やシニアでも使いやすい、低床フラットフロアによる室内大空間・荷室の使い勝手の良さを実現

1957年に発売し、幅広い業種・用途で活躍した「ミゼット」の、使い勝手の良さ高い拡張性を継承。

女性やシニアでも乗り降りしやすい低床フラットフロアと、室内高1,600mmでウォークスルー可能な室内大空間による高い作業性やサービス性。

幅広い業種・用途に合わせて変化させられるバリエーション豊かなマルチユニットシステム。

「先進技術をみんなのものに」の考えのもと、未来の働く人のパートナーを想定した商用EVモデル。

SPEC

全長:3395mm×全幅:1475mm×全高:1995mm

パワートレイン:EV 駆動方式:FF

乗車定員:2名 シート列数:1列

**DN COMPAGNO(ディーエヌ コンパノ)**

“アクティブシニアのためのコンパクト4ドアクーペ”
スタイリッシュなデザインと大人2人がゆったり過ごせる室内空間で、豊かなセカンドライフを彩る新しい提案

1963年に発売した「コンパノ」の、コンパクトながらスタイリッシュなデザイン思想を継承した、伸びやかで美しいシューティングラインを備えたスタイリング。

前席を優先した、大人2人がゆったり過ごせる室内パッケージと、スポーティで上質感あるインテリア。

パワートレインは1,000ccターボ(1,200ccハイブリッドも搭載可能)。

SPEC

全長:4200mm×全幅:1695mm×全高:1430mm

パワートレイン:1000ccターボ(1200ccHVも搭載可能) 搭載ミッション:CVT

駆動方式:FF 乗車定員:4名 シート列数:2列





Fine-Comfort Ride

燃料電池自動車の更なる可能性を示す

Fine-Comfort Rideは、電動車ならではの自由なレイアウトと水素をエネルギー源とする大電力量を活かし、「プレミアムサルーンの新しいかたち」として提案するもの。走行時にCO₂や環境負荷物質を排出しない優れた環境性能と3分程度の水素充填で十分な走行距離を得られる利便性に加え、燃料電池自動車の更なる可能性を追求した。

SPEC

全長:4830mm×全幅:1950mm×全高:1650mm
ホイールベース:3450mm 乗車定員:6名



SORA

FCバスのコンセプトモデル「SORA」を公表

コンセプトモデルをベースにした市販型は、2018年から発売を予定しており、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、東京都を中心に100台以上のSORAが導入される予定である。

SORAは、「受け継がれていく街のアイコン」を開発コンセプトに、FCユニットの特性を最大限に生かし、路線バスのうれしさを大きく高めたバスで、2つの想いを込めた商品となっている。

SPEC

全長:10525mm×全幅:2490mm×全高:3340mm 【FCスタック】名称(種類):トヨタFCスタック(固体高分子形) 最高出力:114kW×2(155PS×2)
【モーター】種類:交流同期電動機 最高出力:113kW×2(154PS×2) 最大トルク:335N・m×2(34.2kgf・m×2)
【高圧水素タンク】本数(公称使用圧力):10本(70MPa) タンク内容積:600L 【駆動用バッテリー】種類:ニッケル水素外部電源供給システム* 最高出力/供給電力量:9kW/235kWh 乗車定員(座席+立席+乗務員):79(22+56+1)名

*接続する給電器の性能、水素残量、消費電力により、給電可能な電力と電力量は異なる。



レクサスインフォメーションデスク

☎0800-500-5577

受付時間 9:00~18:00(365日年中無休)

LEXUSは、10月19日(木)に発売したフラッグシップセダン新型「LS」を出展する。また、LEXUS変革の象徴として2017年3月に発売したラグジュアリークーペ「LC」や、マイナーチェンジした「CT」、「NX」のほか、世界初公開のコンセプトカーを含む全12車種を出展。コンセプトカーの詳細は、10月25日(水)に東京モーターショー会場で公開する。

LS



LS500h

LSは、1989年に初代モデルが発売されて以来、滑らかでパワフルな走りや、圧倒的な静粛性・快適性などで好評を博してきた、今回で5代目となる新型LSは、セダンとして十分な居住性を確保しながら、斬新なクーペシルエットを両立したスタイリングやエモーショナルな走りに加え、数々の先進技術を装備し、LEXUSの象徴として大きな変革を果たした。

SPEC

全長:5235mm×全幅:1900mm×全高:1450mm
ホイールベース:3125mm 乗車定員:5名

TOYOTA

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
☎0800-700-7700

トヨタ自動車(株)は、「クルマは“愛”がつく工業製品」であるという想いのもと、それぞれの時代において、「移動の自由・喜び」といったかけがえのない感動を提供してきた。「TOYOTA Concept-愛i」シリーズは、“more than a machine, a partner”をコンセプトに、ドライバーをより理解し、共に成長するかけがえのないパートナーとして、新しい時代の「愛車」となることを目指す。

TOYOTA Concept-愛i RIDE



- 「人にやさしい都市モビリティ」をコンセプトに、ユニバーサル性を重視した小型モビリティ。ガルウイング、電動ユニバーサルスライドシートなどを採用し、車いすユーザーにとって使い勝手のよいモビリティを追求。
- ジョイスティックやシートレイアウト、自動運転機能により、誰でも「安全・安心」に運転できるクルマを提供。
- シェアリングサービスでの活用も想定。より多くの人と共有することで、ユニバーサルなモビリティを手軽な存在にした。



SPEC

全長:2500mm×全幅:1300mm×
全高:1500mm
ホイールベース:1800mm
パワートレイン: EV
EV航続距離:100-150km程度
乗車定員:2名

TOYOTA Concept-愛i

「未来の愛車」を具現化した
コンセプトカー



- 「TOYOTA Concept-愛i」シリーズを代表する四輪モデル。人工知能により、人を理解するパートナーとして、新しい時代の「愛車」となることを目指す。
- 「人を理解する」技術(Learn)を、自動運転技術やエージェント技術と組み合わせ、ドライバーに対し「安全・安心」(Protect)と移動の楽しさを充実させる「新しいFun to Drive」(Inspire)を提供。
- キャビンを前出しした未来的シルエットと未来的HMI[※]で新しいユーザーエクスペリエンスを実現。
- 一部機能を搭載した車両で、2020年頃、日本で公道実証実験を開始予定。

※Human Machine Interface。人間と機械が情報をやり取りするための手段、装置、ソフトウェアなどの総称。

SPEC

全長:4510mm×全幅:1830mm×全高:1475mm
ホイールベース:2700mm パワートレイン: EV
EV航続距離:300km程度 乗車定員:4名



TOYOTA Concept- 愛i WALK



- 歩行空間に馴染むコンパクトなサイズと自動走行機能により、「安全・安心」に行動範囲を広げることができるモビリティ。
- 3輪・ステア操舵による簡単操作および低床フロアにより、服装、履物を選ばず、気軽に使用可能。
- 観光地等でのシェアリングサービスなどでの活用も想定し、外出先での移動をサポートする。

SPEC

全長:500-700mm×全幅:400mm
×全高(ステップ高):1130mm(160mm)
回転半径:全長未満 パワートレイン: EV
EV航続距離:10-20km程度

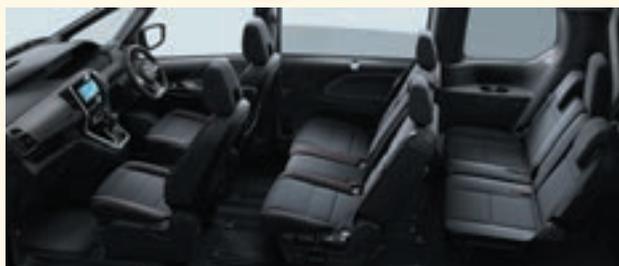


セレナ NISMO

NISMOらしい精悍なスタイルを身に纏ったミニバン

「セレナ NISMO」は、NISMOがもつ技術を惜しみなく注入し、「セレナ」の特長である家族での使い勝手のよさや乗員の快適性を損なうことなく、「迫力のスタイリング」と「爽快なドライビング」を実現しました。エクステリアはNISMOらしい精悍なデザインと優れた空力性能を両立したデザインを採用し、インテリアは各所にNISMOカラーのレッドアクセントをあしらうなど、ドライバーの気持ちが高揚するスポーティな演出を施しました。また、専用のボディ補強やサスペンションチューニングなどにより、気持ちのよいハンドリングを実現するとともに、専用ECMやマフラーを採用し気持ちの良い加速フィーリングを実現しました。

「セレナ NISMO」は2017年11月の発売を予定しています。



スカイライン

最先端テクノロジーを搭載したプレミアムスポーツセダン

いつの時代も最先端のテクノロジーで走りを磨き、ドライバーの心を高揚させ続けてきたプレミアムスポーツセダンです。全方位型運転支援システムを全グレードに標準装備するとともに、高い動力性能と環境性能を両立したハイブリッドシステムや、意のままに快適なハンドリングを実現したダイレクトアダプティブステアリングなどを装備し、運転の楽しさと安全性能を兼ね備えています。

今回マイナーチェンジする「スカイライン」はエクステリアデザインやアルミホイールのデザインを刷新し、より高揚感あふれるデザインを実現しました。インテリアもステアリングやシフトノブのデザイン変更や、インストルメントパネルの表皮を変更するなどし、より上質な室内空間となりました。同車は2017年12月下旬の発売を予定しています。



ソーシャルメディアの活用

今回のモーターショーでは、インターネットの短文投稿サイト「Twitter（ツイッター）」や動画中継サービス「YouTube（ユーチューブ）」等のソーシャルメディアを活用した情報発信を行います。具体的には、日産ブースのプレスブリーフィングやステージ演出の生中継を予定しています。詳細は、日産自動車公式ツイッターアカウント等で順次発信します。



日産自動車株式会社 グローバルコミュニケーション本部
☎045-523-5521 (企業)/5553 (商品)/5520 (IR)

日産自動車株式会社は今回の東京モーターショーでは、将来の「ニッサンインテリジェントモビリティ」を体現したコンセプトカーを世界初公開するとともに、参考出展車両として、9月に発表した新型「日産リーフ」のNISMOモデルとなる「LEAF NISMO Concept」や、「セレナ」のNISMOモデルとなる「セレナ NISMO」、より高品質なデザインを採用した「スカイライン」など、市販車を含めて計13モデルを展示します。

LEAF NISMO Concept

EVにもNISMOのドライビングプレジャーを提供



9月に発表した新型「日産リーフ」は、高速道路同一車線自動運転技術「プロパイロット」や、駐車操作のすべて（アクセル、ブレーキ、ハンドル、シフト、さらにパーキングブレーキまで）を自動制御する国産車初の本格的自動駐車システム「プロパイロットパーキング」を搭載。また、アクセルペダルをみの操作で、発進、加減速、停止保持が可能とした「e-Pedal」を採用しています。



今回参考出展する「LEAF NISMO Concept」は、NISMOのレーシングテクノロジーにより実現した専用エクステリアの採用により、Cd値を悪化させることなくリフト量を低減、優れた空力性能を実現しています。インテリアはブラック内装にNISMOのアイコンカラー



であるレッドのアクセントを施し、走りへの期待感を高める空間を演出しています。また、チューニングされた専用サスペンション、高性能タイヤなどを採用、さらに電動駆動の特性を活かし、どこからでも瞬発力の高い加速フィールを提供する専用チューニングコンピューター（VCM）を搭載し、NISMOらしい走りの楽しさを提供します。「LEAF NISMO Concept」はEVの持つ環境性能に加え、NISMOらしいスポーティーな走りを実現したいと企画したNISMOブランドによるEVコンセプトモデルです。

日野デュトロ ハイブリッド (ワイドキャブ)〈市販車〉TSG-XKU712M

「ヒノニトン」でおなじみの、小型トラック「日野デュトロ ハイブリッド」。

小型ハイブリッドトラックで一番の販売実績を誇る日野デュトロハイブリッドがワイドキャブ車に新たに6速AMTを搭載。あわせてハイブリッドシステムの制御を改善して燃費とドライバビリティを向上させました。13.2km/L*とクラストップの低燃費が自慢です。

※重量車モード燃費値

SPEC

全長:6180mm×全幅:2180mm×全高:2270mm エンジン型式: N04C-UL
排気量:4.009Lトランスミッション形式: 変速段数: AMT6段 モーター出力:36kW
バッテリー: ニッケル水素 288V/6.5Ah 乗車定員:3名(展示車の場合)



日野ポンチョEV〈参考出品・限定販売車〉

国内で唯一の小型ノンステップバス「日野ポンチョ」。そのディーゼルエンジンを電気モーターに置き換えたEVバスです。

既に、東京都墨田区、同羽村市、石川県小松市で営業運行しています。それぞれ約10kmほどの運行ルートを1運行することに充電する「高頻度充電コンセプト」に基づいて運行しており、順調に実績を積んでいます。走行時にはCO₂を出さず、走行音も静かで乗客や地域の皆様に喜ばれています。

SPEC

全長:6990mm×全幅:2080mm×全高:3100mm モーター出力:200kW
バッテリー: リチウムイオン 約30kWh 車両総重量:7775kg
乗車定員:36名(座席11、立席24、乗務員席1)

日野レンジャー ダカールラリー2014参戦車〈参考出品車〉

1991年の初参戦以来26回連続して出場し、連続完走記録を積み重ねてきた日野レンジャー。日野のチャレンジスピリットと高い耐久性の象徴です。展示車はダカールラリー2014で菅原照仁ドライバーがステアリングを握り、排気量10リッター未満クラス優勝を果たした車両です。ギャラリーを併設し、過去に受賞したトロフィーなどを展示します。

SPEC

全長:6150mm×全幅:2420mm×全高:3050mm エンジン型式: J08C-TI
排気量:7.961Lトランスミッション形式: 変速段数: マニュアル 6段 副変速機付
車両総重量:6700kg 乗車定員:2名



エンジン展示



A09Cエンジン



A05Cエンジン

高効率で低燃費なエンジン2基を実物展示にてご紹介します。

A09Cエンジンは、主に大型車用の、高い環境性能を備えたダウンサイジングエンジンです。A05Cエンジンは、そのA09Cエンジンをベースにした、主に中型車用のダウンサイジングエンジンで、いずれも2段過給や世界初採用となる「ディンプルライナー*」、超高压コモンレール等を採用した最新エンジンです。

A09Cエンジンは日野プロフィア、日野セレガに、A05Cエンジンは日野レンジャー、日野ブルーリボン ハイブリッド、日野メルファに搭載されています。

※シリンダーライナーのピストン摺動部にディンプル(小さな窪み)を形成して抵抗を低減する仕組み。「ディンプルライナー」は日本ピストンリング株式会社との共同開発です。



日野自動車株式会社 渉外広報部 広報室
 〒191-8660 東京都日野市日野台3丁目1番地1
 ☎042-586-5494 FAX 042-586-5299
<http://www.hino.co.jp>

日野自動車株式会社(以下、日野)は、今年フルモデルチェンジした大型トラック「日野プロフィア」と「日野レンジャー」、すでに営業運行している小型EVバス「日野ポンチョEV」など5台のほか、エンジン2基を出展します。出展テーマは「もっと、はたらくトラック・バス」。人や物を運び、人々の生活を支えている日野のトラック・バスの実物展示とともに、映像やパネル展示により、先進の環境・安全技術や、車の稼働を支える取り組み、さらに日野の考える物流の未来像についてもわかりやすくご紹介します。

日野は東京ビッグサイト東1ホールに出展します。

日野プロフィア 〈市販車〉2RG-FW1AXHG

今年14年ぶりのフルモデルチェンジを果たした大型トラック、新型「日野プロフィア」。エクステリア、インテリアを一新するとともに、定評ある安全性、経済性もさらに向上、平成28年排出ガス規制に適合しています。

对人検知が可能な衝突被害軽減ブレーキ「PCS*」や車線逸脱警報など先進の安全装備を標準装備、また主力の279kW(380PS)エンジンを13Lから9Lにダウンサイズすることで大幅な軽量化も実現。

ドライバーが乗ってみたいくなる、そして稼げるトラックです。

※「PCS」はトヨタ自動車の登録商標です。



SPEC

全長:11965mm×全幅:2490mm×全高:3790mm エンジン型式: A09C 排気量:8.866L
 トランスミッション形式、変速段数: AMT12段 乗車定員:2名



日野レンジャー 〈市販車〉 2PG-FE2APBG

「日野プロフィア」と同時に16年ぶりにフルモデルチェンジし、平成28年排出ガス規制に適合させた新型「日野レンジャー」。

こちらもエクステリアとインテリアを一新し、「日野プロフィア」と同等の先進安全装備を標準装備しています。すべてのエンジンを5Lにダウンサイズして燃費も向上しました。

SPEC

全長:9680mm×全幅:2490mm×全高:3570mm エンジン型式: A05C 排気量:5.123L
 トランスミッション形式、変速段数: AMT7段 乗車定員:2名



Honda NeuV(ホンダ ニューヴィー)



自動運転技術とAIによって広がるモビリティの可能性を模索するEVコンセプトモデル。ドライバーの表情や声の調子からストレス状況を判断して安全運転のサポートを行うほか、ライフスタイルや嗜好を学習して、状況に応じた選択肢の提案を行うなどのコミュニケーションを実現。また、所有者が使用しない時には、所有者の許可を得て、自動運転で移動ライドシェアを行うことも想定しています。

CR-V



乗用車感覚の走行性能と高い機能性を兼ね備え、世界160か国以上で支持されているSUVモデル。5代目となる今回は、歴代初となる2モーターハイブリッドシステム「SPORTHYBRID i-MMD」を搭載したFF車および4WD車をラインアップしています。また、ガソリン仕様に新たに3列目シートを設定するなど、ユーティリティ性能も向上。さらに、先進の安全運転支援システム「Honda SENSING(ホンダ センシング)」を標準装備しています。



Honda Riding Assist-e (ホンダ・ライディング・アシスト・イー)



ヒューマノイドロボット研究で培ったHonda独自のバランス制御技術を二輪車に応用。極低速走行時にマシン自体がバランスを保つことで、ライダーの負担を軽減。ライディングを気軽でより楽しいものにします。またパワートレインには電動モーターを採用。Hondaが目指す“自由で楽しい移動の喜び”や“カーボンフリー社会の実現”の具現化に向けた提案です。

HONDA

Honda お客様相談センター
☎0120-112010(いいふれあいを)
受付時間 9:00~12:00、13:00~17:00

Hondaは、東京ビッグサイトで開催される「第45回東京モーターショー2017」に、コンセプトモデルを含む四輪車・二輪車などを出展します。今回の出展では、“自分を、もっともっと連れ出すんだ。”をブースコンセプトに、モビリティを通して拡がる人間の可能性、豊かな生活をHondaブース全体で提案します。

世界初公開となる「Honda Sports EV Concept(ホンダ・スポーツ・イーブイ・コンセプト)」をはじめとする多様な電動化モデルや、日本初公開となる新型「CR-V(シーアールブイ)」など

グローバルで活躍するモデルを展示。また今年10月に生産累計1億台を迎えるスーパーカブの記念車など、約60年にわたるカブの歴史、現在、未来を伝えるカブワールドを展開します。

Honda Sports EV Concept



コンパクトなボディに、EV性能と人工知能(AI)を組み合わせ、人とクルマがひとつになったような運転感覚を体験できるモデルを目指して開発。Honda Urban EV Concept(ホンダ・アーバン・イーブイ・コンセプト)とプラットフォームを共有しながら、一目で心に残り、多彩なライフスタイルに自然と溶け込む親しみやすいデザインとし、所有する喜びと愛着が感じられる、次世代のスポーツカーを目指しました。



Honda Design



Honda Urban EV Concept



新開発のEV専用プラットフォームを採用し、将来の量産EVモデルの技術とデザインの方向性を示すモデル。“キビキビした走りの楽しさ”と“愛着を感じる親しみやすさ”をシンプルに表現したデザインとし、都市の移動に最適なコンパクトサイズとしています。またAIや車両の外へ向けメッセージやあいさつなどを表示するディスプレイを備えるなど、人とクルマの自然なコミュニケーションを実現します。

マツダCX-8



また、本年12月に国内で発売予定の新型3列シートクロスオーバーSUV「マツダCX-8」をモーターショーで初公開。マツダの国内向けSUVラインアップの最上位モデルとなる「CX-8」は、上質で洗練されたデザイン、大きく進化したクリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D 2.2」によるトルクフルで余裕のある走行性能、3列目まで快適な室内空間を実現しています。

さらに、ダークチェリー色の幌やオーバーン（赤褐色）のナッパレザーインテリアを採用した「マツダロードスター」の特別仕様車「RED TOP（レッド・トップ）」も出品します。

*2017年8月現在、マツダ調べ





mazda

マツダコールセンター
フリーダイヤル ☎0120-386-919
受付時間 平日 9:00~17:00
土日祝 9:00~12:00、13:00~17:00

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、今後導入される次世代商品群の先駆けとなるコンセプトモデル(以下、次世代商品コンセプトモデル)と、次世代デザインの方向性を具現化したコンセプトモデル(以下、次世代デザインビジョンモデル)の2台を公開します。また、技術展示物として、次世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X(スカイアクティブ・エックス)」を出品します。今回のマツダのショーテーマは、「マツダは『走る歓び』で、クルマを愛する人に人生の輝きを提供する」です。このテーマには、将来においても「走る歓び」にあふれるカーライフを提供することで、お客様の人生を豊かにし、お客様との間に特別な絆を持ったブランドになる、という決意が込められています。

世界初公開となる**次世代商品コンセプトモデル**は、マツダの次世代技術と次世代デザインを融合したコンパクトハッチバックモデルです。ガソリンエンジンにおいて圧縮着火を制御する技術の実用化に世界で初めて*めどをつけた**「SKYACTIV-X」**と、人間中心の思想を突き詰めて各機能を最適化した次世代車両構造技術**「SKYACTIV-Vehicle Architecture(スカイアクティブ・ビークル・アーキテクチャー)」**を採用。全方位で飛躍的に洗練されたダイナミック性能を実現します。また、次世代デザインをコンパクトカーのフォルムに凝縮し、マツダが考える理想的なコンパクトハッチバックを目指しました。



次世代デザインビジョンモデルは、2012年のCX-5導入以来、世界中から高く評価されてきたマツダの魂動デザインの表現方法をさらに深化させた、次世代デザインの考え方を具現化したモデルです。



AIパーソナルアシスタント

車載のAIパーソナルアシスタントが、人工知能技術やコネクティッドカー技術を活用し、乗員のことを深く理解し、運転中の安心・安全のための適切な情報を提供したり、運転中のドライバーと在宅中の家族とのコミュニケーションをサポートするなど、新たな体験を提供します。AIパーソナルアシスタントは、主に下記の機能を提供します。

①対話機能

- 最先端のAI技術（音声認識、自然言語処理等）により、走行騒音環境下においても乗員の発話を正しく理解し、自然な言葉で乗員と会話ができます。
- 声紋認識やカメラを用いた人物認証機能により人物を認証したうえで、その人の会話や行動を学習し、好みやニーズに合わせたサービスを提供します。
- 車両状態（異常検知など）の提供や、自然な会話による空調・ワイパー・ライトなどの操作も行えます。
- クラウド型音声認識（クラウドにあるAIを活用した音声認識システム）とローカル型音声認識（車の中にあるAIを活用した音声認識システム）を組み合わせたハイブリッド型システムであり、ネットワークが繋がらない環境においても、クラウド型音声認識と同レベルの精度、低レイテンシー（遅延時間）を実現します。

※今回、上記技術の一端を披露するデモンストレーション*1を行います。

*1…CAPIO,Inc./株式会社イチベルと共同開発しております。

②多種多様なデバイスやコンテンツとの連携

AIパーソナルアシスタントが、様々なデバイスやコンテンツとの連携をサポートします。例えば、ドローンを自動車と連携させ、音声でドローンを操縦して撮影することで、これから向かう先の道路状況を映像で確認したり、自車の走行シーンを楽しむことができます。

スマートスピーカー展示

コネクティッドカーサービスの一つとして取り組んでいる、車と家との連携の可能性について、「Amazon Echo」と「Google Home*2」を使用したデモンストレーションを行います。

Amazonのクラウド音声サービス「Alexa」に対応した「Amazon Echo」は、音楽の再生、予定表へのアクセス、ショッピング、スマート家電の制御等を行うことができます。

「Google Home」は、Google アシスタントを搭載し、音声認識で音楽の再生、知りたいことを検索、予定の確認や、スマート家電の操作等を行うことができます。スマートスピーカーは米国を中心に普及が進んでいます。

今回はスマートスピーカーと自動車の連携機能として、ヘッドライトの点灯、車内の温度調節、ドアをロックする機能などのデモンストレーションを行い、ご来場のお客様に実際にご体験頂きます。

*2…Google HomeはGoogle Inc. の商標です。



MITSUBISHI MOTORS

三菱自動車 お客様相談センター
 フリーダイヤル ☎0120-324-860
 受付時間 9:00~17:00
 土・日 9:00~12:00、13:00~17:00

三菱自動車は、これからの三菱自動車のクルマづくりの方向性を示唆するコンセプトカー『MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT』*を世界初披露します。また、来春の発売を予定している新型コンパクトSUV『エクリプス クロス』（日本仕様）を日本初披露するほか、一般公開日には『アウトランダー PHEV』をはじめ国内で販売する主力モデルを含めた全12台を出品します。

*『MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT』の車名には、三菱自動車独自のEVの進化形 (EVOLUTION) という意味を込めました。

MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT



クロスオーバーSUVタイプの新世代ハイパフォーマンスEV

三菱自動車が得意とするEV技術と四輪制御技術に代表されるSUVノウハウを融合・進化させるとともに、新たにAI(人工知能)技術を搭載することによって、どんな気象条件や路面状況でも、ドライバーの意思と高度に同調し、意のままの安全で快適なドライビングを提供します。



新型コンパクトSUV 『エクリプス クロス』

スタイリッシュなクーペフォルムにダイナミックなSUVの機動力を融合させた三菱自動車らしいクーペSUVです。行動意欲を掻き立てる個性的なデザイン、新たな楽しみへの閃きをもたらすコネクティビティ、四輪制御技術による安心して楽しめるドライビングフィールを特長としています。



Super Great (FP-R セミトラクタ)

21年ぶりにフルモデルチェンジを遂げた、三菱ふそう大型トラック「スーパーグレート」。展示車は海上コンテナ輸送などを行う、最新のFP-Rセミトラクタ。新世代エンジン+独自のAMT「ShiftPilot(シフトパイロット)」が生む新たな走り、最良の快適を生む新型コックピット、輸送を守る最新の安全システムの数々など、常識を超える進化をまとった三菱ふそうのフラッグシップモデルです。

AMT : Automated Manual Transmission/機械式自動トランスミッション

SPEC

車両型式 2RG-FP74HDR3YKV□ エンジン型式:6R20(T3) エンジン排気量:10.7L エンジン最高出力:315kW(428PS)/1600rpm
エンジン最大トルク:2100N・m(214kgf・m)/1100rpm トランスミッション:12段ShiftPilot サスペンション:リヤエアサス 架装カプラ: FUSO純正カプラ
第5輪荷重:11.5t(新基準仕様) 排出ガス規制/その他:平成28年排出ガス規制適合、燃費基準+10%達成 乗車定員:2名

Aero Queen (大型観光バス仕様)

約10年ぶりに大きな進化を果たした、大型観光バス「エアロクイーン」。見る者に感動を与える流麗なスタイリングはそのままに、新世代エンジン+独自AMT「ShiftPilot」による快適な走りと、先進安全システムによる安全面の革新を実現。とくに国内大型観光バス初となるShiftPilotは、乗務員の運転負担を大きく軽減するとともに安全運転も追求。お客様のより安心なご乗車をかなえ、観光バスの新たなベンチマークとなります。

SPEC

車両型式 2TG-MS06GP□ エンジン型式:6S10(T2) エンジン排気量:7.7L エンジン最高出力:280kW(381PS)/2200rpm
エンジン最大トルク:1400N・m(142kgf・m)/1200~1600rpm トランスミッション:8段ShiftPilot
サスペンション:前後ともエアサス 排出ガス規制/その他:平成28年排出ガス規制適合、燃費基準+15%達成





三菱ふそう お客様相談センター
フリーダイヤル ☎0120-324-230
受付時間 月～金(除く所定の休日)
9:00～12:00、13:00～17:00

LIGHT UP TOMORROW

三菱ふそうでは、「LIGHT UP TOMORROW」をテーマに、人や社会のために進化し続ける商用車のダイナミックな躍動と挑戦の姿を表現。常に革新をカタチにしてきた三菱ふそうのビジョンが、ブース一体となる斬新な光の演出やアートパフォーマンスとともに体感できる。

Vision One (コンセプトモデル)



電気トラックのトップランナーをめざす、三菱ふそうが想い描く未来のe-Truckを象徴するモデルが、大型電気トラックの「Vision Truck」です。大いなる変革を予感させる斬新なスタイリング、EV駆動によるゼロエミッション、次世代の運転環境、商用車としての経済性など。三菱ふそうはVision Truckに遥かな夢を託しながら、輸送の可能性に挑み続けます。



eCanter (世界初の量産電気トラック)

世界中の都市が直面する環境問題に、世界初のe-Truck(電気トラック)として新たな答えを出したeCanter。長年のノウハウと新技術を融合し、「フル電気(EV)駆動」を開発。電気で運ぶことで、排気ガスが出ない「ゼロエミッション」「ゼロノイズ」を達成。さらに環境性能のみならず、商用車としての積載性、維持コストの低減により経済性なども高次元なレベルで追求しました。未来の都市配送を担う、ニューカテゴリーの小型トラックです。なお展示車は補助充電用ソーラーパネルを装備。コミュニケーションを容易化するアプリ対応ディスプレイなど、最先端の運転環境もかなえている。

SPEC

電気駆動システム モーター最高出力:129kW モーター最大トルク:390N・m バッテリー:リチウムイオン電池(6個) バッテリー容量:13.8kWh
航続距離:100km以上 充電時間:1.3時間(直流急速充電時)/9時間(交流230V) 最大積載量:3600kg 車両総重量:7500kg 乗車定員:3名



FH 6x4 セミトラクター

ボルボ・トラック主力モデル ボルボFH(参考出展)



ビジネスの成功への大きな鍵となるドライバーを念頭に設計されたボルボFHは、2012年のフルモデルチェンジでキャブデザインを大幅に変更し、従来の製品に比べて居住性や視認性、操作性を向上しました。さらにこのたび、平成28年排出ガス規制への適合を予定するとともに、安全性を重視する日本のお客様のニーズに応え、AEBS、LDWS、VSP、レーンチェンジサポートを標準装備し安全機能をさらに充実。ドライブライン関連では、I-シフトの許容トルクを増大し、デュアルクラッチやクローラーギヤがオプション設定される予定です。

SPEC

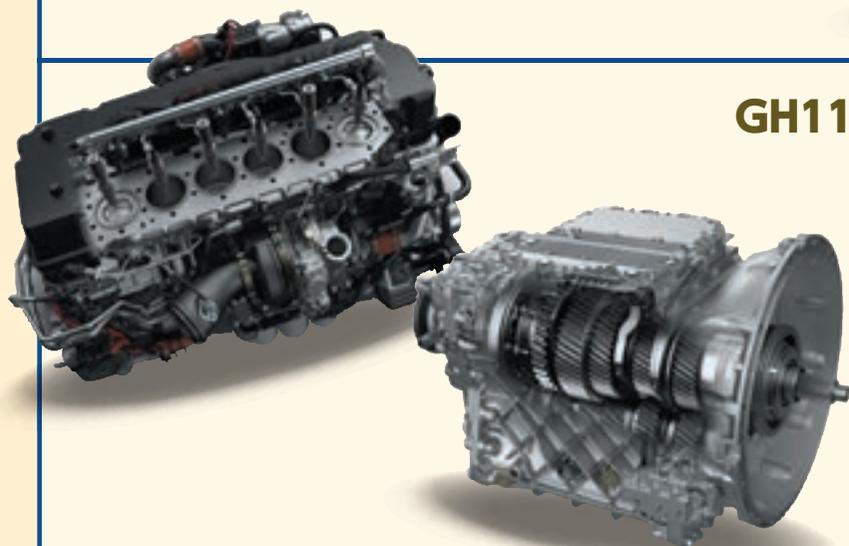
全長:6660mm×全幅:2490mm×全高:3460mm
ホイールベース:3000mm
車両重量:9640kg 最大積載量(第5輪荷重):18000kg
エンジン型式・シリンダー数: D13(D13K540)-直列6気筒
トランスミッション:I-シフト、前進12段後進4段

*ボルボトラックとして共同出展

GH8エンジン(世界初出展)



UDトラックスは、平成28年排出ガス規制に適合した排気量8リットル級のダウンサイジングエンジンを、2018年後半に、大型トラッククオンに搭載する予定です。軽量・コンパクトなダウンサイジングエンジンは、より幅広いお客様の架装ニーズにお応えします。



GH11エンジン・ESCOT-VI

クオンのドライブラインは、クリーンでありながら馬力、トルクをさらに向上させた「GH11エンジン」と、省燃費運転をサポートする機能を進化させた電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI」を全車に搭載しています。先進技術を集結させたドライブラインが、高い燃費性能と、スムーズでストレスの少ない快適な走りをもたらします。



UDトラックス広報
Info.udtrucks.japan@udtrucks.co.jp

UDトラックスは、1935年の創立以来、常に時代が求めるトラックをつくり続けてきました。お客様の声に耳を傾け、ロジスティクスの未来を見つめて進化する、その歴史と想いをひとつに凝縮させたのが、2017年4月に発表した新型Quon（クオン）です。第45回東京モーターショーのテーマ、「Best truck for all drivers! —すべてのドライバーにとって、ベストなトラックを目指して。」には、人を想う商品開発を続け、「誰もが簡単・快適・安全に運転できるトラック」を目指す、UDトラックスの想いが込められています。

フラグシップ大型トラック 新型Quon（クオン）

「人を想い、先を駆ける。」新型クオンは、現代社会における輸送ソリューションに求められるすべてのニーズに応えるUDトラックスのフラグシップ大型モデルです。省燃費・パワフル・クリーンを実現するGH11型エンジン、GPSを駆使した先読み機能「フォアトラック」と進化した電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI（エスコット・シックス）」の組み合わせはスムーズでストレスの少ない走りを実現。新たにセミトラクターがラインナップに加わりました。

SPEC

全長：5620mm×全幅：2490mm×全高：3335mm ホイールベース：3200mm
車両重量：6740kg 最大積載量（第5輪荷重）：11500kg
エンジン型式・シリンダー数：GH11TD-直列6気筒 トランスミッション：ESCOT-VI



クエスター 6x4 セミトラクター

新興国市場向け大型トラック Quester（クエスター）

新興国市場向けに2013年に登場したクエスターは、ボルボ・グループのグローバルな技術と日本のものづくりを結集して、頑丈で信頼性が高く燃費性能に優れた大型トラックです。2015年には8リッターエンジンや多様なアクスルアレンジメントを含むフルラインナップ投入を完了。

SPEC

全長：7035mm×全幅：2495mm×全高：3946mm
ホイールベース：4085mm
車両重量：9318kg 連結車両総重量：80000kg
エンジン型式・シリンダー数：GH11E-直列6気筒
トランスミッション：12速マニュアルトランスミッション



MWC-4 エムダブリュシー フォー（参考出展車）

"ハーフサイズモビリティ" をコンセプトに開発した、二輪車から発想したモビリティの可能性を広げる前後2輪の4輪LMW。従来の二輪車にはない快適性と、発電用エンジンを備えたモータードライブや姿勢制御技術が実現する新感覚の走行フィーリングを、モーターサイクルと楽器からインスパイアされたスタイリングで表現しています。



YPJ-XC ワイピージェイ エックスシー（参考出展車）



電動アシスト自転車の新たな価値を創出する「YPJ」シリーズの新提案。第44回東京モーターショーに出展した「YPJ-MTB Concept」をベースに、最新のパワーユニット「PW-X」を搭載し、より市販モデルに近づけたマウンテンバイク「YPJ-XC」。加えて、欧州で定評のあるパワーユニット「PW-SE」を搭載し、YPJシリーズにさらなる大容量バッテリーとパワーを与えたクロスオーバーロードバイク「YPJ-ER」、フラットバーロードバイク「YPJ-EC」、トレッキングバイク「YPJ-TC」の4モデルを出展しています。





ヤマハ発動機株式会社
 コーポレートコミュニケーション部 広報グループ
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1
 丸の内マイプラザ15階
 ☎03-5220-7211 FAX 03-5220-7233

ヤマハ発動機株式会社は、[YAMAHA FUTURE GARAGE 響きあう未来へ。] をテーマとする展示ブースを出展します。ヤマハブース（東7ホール）では、世界初披露のワールドプレミア6モデル、日本初披露のジャパンプレミア4モデルを含む電動アシスト自転車、スクーター、モーターサイクル、リーニング・マルチ・ホイール（LMW）、四輪車のデザインコンセプトモデルなど合わせて20モデルを展示。「人とマシンが共響するパーソナルモビリティ」の概念検証実験機や、ヒト型自律ライディングロボットきょうめいの技術展示など、小型モビリティを基幹事業とするヤマハならではの「もっとひろがるモビリティの世界」を提案します。

MOTOROID モトロイド（参考出展車）

新しい感動体験の創出を目的に、知能化技術というインテリジェンスを用いて、「人とマシンが共響するパーソナルモビリティ」を目指す概念検証実験機です。開発コンセプトは、「UNLEASHED PROTOTYPE（常識からの解放）」。

オーナーの存在を認識するなどまるで生きているようなインタラクション（相互作用）機能を持ち、こうしたチャレンジに取り組みながら、新しい価値を生み出す技術の獲得を目指しています。



MOTOBOT Ver.2 モトボット バージョン2（技術展示）



モーターサイクル技術とロボティクス技術を融合し、未知の領域を開拓する自律ライディングロボットです。車両そのものには手を入れず、ヒト側から見た車両操作にフォーカスし、高速でのサーキット走行を可能にしました。2017年の開発マイルストーンとして設定したのは、「200km/h以上でのサーキット走行」と、MotoGPのトップライダー、バレンティーノ・ロッシ選手とのバトル。MOTOBOTの開発で得た高度な要素技術や知見は、既存ビジネスの新たな価値創造や、新規ビジネスの開拓に活かされています。

試乗体験プログラムのご案内

これまで会場内で実施していた試乗会を、近隣の臨海副都心エリアに移し、大幅に拡充。従来の乗用車・二輪車の試乗体験を始め、商用車や様々なモビリティなど、これまで以上に体験コンテンツを増やして開催いたします！



スケジュール	10/28 Sat	10/29 Sun	10/30 Mon	10/31 Tue	11/1 Wed	11/2 Thu	11/3 Fri	11/4 Sat	11/5 Sun
試乗体験プログラム会場	10月28日～11月1日 10:00～17:00								
①センタープロムナード					10月31日～11月1日 10:00～17:00				
②お台場特設会場							11月1日～11月5日 11:00～20:00 (最終日のみ18:00迄)		
③MEGA WEB									

体験コンテンツ

センタープロムナード

- ◇ パーソナルモビリティ試乗体験

MEGA WEB

- ◇ 最新乗用車試乗体験
- ◇ 最新二輪車試乗体験

お台場特設会場

- ◇ 超小型モビリティ試乗 (特設コース)
- ◇ 超小型モビリティ試乗 (公道コース)
- ◇ 次世代技術体験
- ◇ エクストリーム同乗試乗体験
- ◇ オフロード同乗試乗体験
- ◇ 電動カート試乗体験
- ◇ 商用車公道同乗試乗体験
- ◇ パーソナルモビリティ試乗体験

試乗会場 ▶ 東京ビッグサイトと試乗会場間 (約1.5km) は、シャトルバスや次世代タクシーを無料にて運行いたします。ぜひご利用ください。



受付方法 ▶ 東京モーターショー公式アプリまたは各会場に設置する専用予約端末による「当日事前予約制」です。当日は2時間先までの試乗枠を先着順で予約することが出来ます。

※東京モーターショー公式アプリによる当日事前予約には、スマホでの会場へのチェックイン認証が必要となります。チェックインは東京ビッグサイト会場内/センタープロムナード/お台場特設会場/MEGA WEBの各会場に専用エリアを設置いたします。(専用予約端末も同様の場所に設置)

東京モーターショー
公式アプリから当日分の
予約が可能に!



大学の学食トレイで 東京モーターショーをPR



自工会は、「第45回東京モーターショー2017」への若年層の来場誘致を目的に、従来にな
いPR活動を行っている。

首都圏の主要5大学内の10カ所の食堂(通称「学食」)で、学生が食事を載せて運ぶ学食トレイに東京モーターショーの告知広告をシールで貼り付けて展開する手法で、自工会としては初め

ての取り組みとなる。東

京モーターショーが開幕する直前1カ月間に、集中的に大学生を対象に東京モーターショーへの関心をもってもらうのが狙い。10月1日から1カ月間にわたり、学食トレイを通じて、推計約6万人以上の大学生に東京モーターショーをPRする。

大学生が週に何回もリピーターとして通う学食は、大学生にとって友人とのコミュニケーションを図る場として重要な位置を占めている。学生にとって身近な



学食トレイを活用して情報発信すれば、SNS等を通じてそれが幅広く拡散する可能性を秘めている。

実際に学食に遊びにきていた女子学生は「普段は友人のクルマで皆でドライブに行ったりしますが、東京モーターショーは今まで覗いたことはありません。このトレイを見ると、どんなイベントなのかなと気になります。友人と相談してみたいと思います。」と興味津々の様子。

大学生達の心にとこまで響くか、東京モーターショーの告知シールを貼って普段以上に華やかに見える学食トレイに期待したい。

世界を、ここから動かそう。

BEYOND THE MOTOR

TMS

TOKYO MOTOR SHOW 2017

10.27~11.5 東京ビッグサイト